

## 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画における基本理念・基本方針の検討結果について

武蔵野市一般廃棄物処理基本計画改定にあたり、令和4年5月27日(金)開催のごみ市民会議におけるグループディスカッション(GD)で出された委員の皆様からの意見や案を踏まえ、理事者を含め市で次期計画の基本理念・基本方針を検討した結果を以下にお示しします。

## 事務局検討結果(案)

基本理念	ごみゼロを目指して 持続可能なまち「むさしの」へ ~身近なことからみんなで一歩ずつ~
基本方針	市民・市民団体・事業者・行政の連携 リデュース・リユース・リサイクル(3R)の推進 安全・安心で安定したごみ処理の維持

## 1 基本理念について (現計画 p.12)

現行	環境負荷の少ない省エネルギー・省資源型の持続可能な都市を目指す
委員案・意見 まとめ (GD)	1 グループ:「環境負荷の少ない省資源型の都市を目指す」 現行をストレートな表現に変更した。 2 グループ:「ごみをつくらず」は深い意味合いを持ち、「むさしの」は市の制定した理念と分かるので入れるとよい。「持続可能」や「循環型社会」はどちらか片方でよい。 3 グループ:「持続可能」や「循環型社会」という言葉を入れる。グローバルな視点を持たせることと、分かりやすい言葉を使うべきである。
委員・事務局 検討経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行と比較して、「ごみ」に関する計画であることが市民に容易に伝わるように検討した。「ごみ」という単語を入れることで、一般廃棄物の計画であることが一目でわかるようにした。</li> <li>・「持続可能」と「むさしの」を結ぶことで、地域とSDGs(持続可能な開発目標)を踏まえたグローバルな視点の共存を図った。</li> <li>・基本方針で出た副題をつけるという手法を、基本理念に活用した。</li> <li>・委員からの基本方針の副題案は「一人ひとりができることから一歩ずつ」であったが、方針に「連携」とあることから「一人ひとり」を「みんな」に読みかえた。また、「身近なところから考える」「自分事として考える」という要素を加えるべきという意見を取り入れた。</li> <li>・理念について市で協議を行う中で、人により解釈の揺れがある言葉(「ごみをつくらない」という単語など)をなるべく使わない方が良いという意見があった。ごみを無くすということをより簡明に表す言葉として「ごみゼロ」を採用した。</li> </ul>

## 2 基本方針について (現計画 p.13)

現行	市民・市民団体・事業者・行政の連携の再構築
委員案・意見 まとめ (GD)	1 グループ:市民・事業者・行政の協働によるごみ減量の推進 — 一人ひとりができることから一歩ずつ — 2 グループ:事務局案2をベースにまとめる。「連携」より「協働」の方が良い 「リデュース、リユース、リサイクル(3R)の推進」という言葉が入るとより良い 3 グループ:「連携」や「協働」、「消費者への教育」や「ライフスタイル」、「身近なところから考える」という言葉が入ると良い

委員・事務局 検討経過	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民・市民団体・事業者・行政の連携によって3Rを推進する方針。「市民団体」についてはGDの中で市民に含まれるので不要ではないかとの意見があったが、市民団体との連携がこれまでも武蔵野市で積極的に行われ、今後も維持される必要があると考えられるため、記載を残した。</li><li>・「連携」には、「周囲と共通の目標に向かう」という意味があるため採用。「協働」は「協力して働くこと」の意に留まることが分かり、GDの中で出た意見をより反映しているのは「連携」という単語であると判断した。</li><li>・3Rはすでに認知度が高く、ごみを連想させる言葉であるため採用した。</li><li>・安全・安心・安定のごみ処理について、GDでは武蔵野市で既に出来ていることとして候補に挙げられなかったが、当たり前のことを当たり前できていることが大切だという面も必要と考え、事務局の方で追加した。</li></ul>
----------------	--